

禁煙推進委員会だより

「COVID-19 と喫煙について」

独立行政法人国立病院機構岩国医療センター呼吸器内科／
山口県医師会禁煙推進委員 久山 彰一

山口県医師会の皆様におかれましては、平素より禁煙推進委員会の活動に御協力いただきましてありがとうございます。本年度より禁煙推進委員に就任させていただきました岩国医療センター呼吸器内科の久山彰一と申します。今後とも宜しくお願いいたします。

さて、COVID-19は2019年12月に中国湖北省武漢市での発生が報告されてから、またたく間に全世界へ感染が拡大し、日常生活に大きな影響を及ぼしております。武漢株からアルファ株、デルタ株と変異株が発生し、2022年11月現在ではオミクロン株（特にBA.5系統）が主流を占めております。

オミクロン株はアルファ株、デルタ株と比較して酸素投与や人工呼吸管理などを必要とする割合は低く、致死率は低いとされていますが、再感染の報告もあり高齢者での死亡例の報告は多くなっております。

現在（11月中旬）は第8波に入りかけているところです。感染がコントロールでき、封じ込めることができればよいのですが、残念ながら完全に防ぐことはできない状態です。それならば少しでも重症化を防ぐ、死亡者を少なくすることが重要となります。

COVID-19の重症化のリスク因子としては高齢、悪性腫瘍などの持病のある人、COPD等の慢性呼吸器疾患、糖尿病、肥満などの中に喫煙があります。WHOは2020年5月の声明(WHO statement: Tobacco use and COVID-19 11 May 2020)で喫煙の危険について説明しております。

喫煙はなぜCOVID-19を重症化させるかについても研究が進んでおります。新型コロナウイルスは人の気道にあるACE2受容体から体内に入って増殖することが知られています。このACE2受容体が、喫煙している人では増加していることがわ

かりました。そのため新型コロナウイルスが体内に入りやすく喫煙者は重症化しやすくなると考えられています。

またパンデミックの関連の不安から、うつなどへ対処するために喫煙量が増えて、タバコの消費が増えることが示されております。今までの研究でタバコの消費の増加が自殺念慮、自殺企図などの増加へ結びつくことも示されており、そのためにCOVID-19のパンデミック下では喫煙が自殺のリスクの増加に結びつくことが報告されました (Smoking enhances suicide risk-a significant role in the COVID-19 pandemic? Leo Sher, MD, QJM. 2021 Oct 25)。

COVID-19の感染後後遺症についても問題になっております。喫煙はCOVID-19を重症化させるために、必然的に感染後後遺症の発症の可能性を高めます。

このように、喫煙とCOVID-19の重症化には大きな関連があります。少しでもCOVID-19の重症化、後遺症の発症を防ぐために、禁煙を勧めただけであれば幸いです。

県下唯一の医書出版協会特約店

医学書専門 井上書店
看護学書

〒755-8566 宇部市南小串2丁目3-1(山口大学医学部横)
TEL 0836 (34) 3424 FAX 0836 (34) 3090
[ホームページアドレス] <http://www.mm-inoue.co.jp/mb>.
新刊の試覧・山銀の自動振替をご利用下さい。